

音楽教材における日本伝統音楽について

伝統音楽への関心調査についての一考察

藤 崎 文 夫

Japanese Traditional Music in the Music Education

A Study of Japanese Traditional Music through
a Questionnaire Survey

Fumio FUJISAKI

はじめに

現代の日本における音楽は、きわめて多種多様である。西洋音楽を中心とするクラシック音楽、ジャズ、ポピュラー、フォーク、さらに日本古来の日本音楽等、音楽会に、テレビ、ラジオに、映画にと、あらゆる場所で、多くの種類の音楽が多くの人々を楽しませてくれる。フォークに夢中になる若者、ジャズに熱中する人、クラシック音楽の愛好者、また長唄・箏曲、その他日本の音楽に心ひかれる人と、現代の音楽は多くのジャンルに分かれているが、それぞれに生活にうるおいを与え、情操を培うのに大きな役割を果たしている。

これら種々の音楽は、戦後とくに盛んになり、楽器を演奏する人も多くなり、演奏技術も著しく向上してきた。たゞこのように向上発展してきた音楽を考えると、その大部分が洋楽系統であり、日本の伝統音楽は、ごく一部の人に守られているのが現状ではなかろうか。即ち盛んになってきたのは、洋楽であり、日本音楽に関心を持つ人は、むしろ少なくなっていくのではなかろうか。

そこで日本伝統音楽にどの程度の関心を持ち、どの程度知っているかを調査し、その結果を考察して将来の音楽教育へのつながりを考えてみたいと思い、本学の学生を対象に調査を行った。

方 法

質問紙法によるアンケート方法と、レコードを使用し実際の演奏を通して、聴きとりの方法で調査を実施した。

1. 調査対象

昭和51・52・53年度の3か年、本学児童学科児童教育専攻第3学年の学生計347名(Bは105名)

2. 調査内容

文部省著作中学校指導書音楽編による鑑賞教材例日本伝統音楽から選び、雅楽、能楽、琵琶楽、箏曲、地歌、尺八楽、長唄、義太夫節の各曲種について(調査Bはその中の一部)代表的な曲をとりあげた。

調査は二種類で、Aはアンケート、Bは演奏聴取によることとした。

1) 調査Aカルテ

日本の音楽

I 日本伝統音楽の楽曲について

A 雅 楽

(1) 雅楽を聞いたことがありますか

(有 る な い)

(2) 次にあげた曲のうち、演奏を聞いたことのあるものに◎、曲名のみ聞いたことのあるものに○、をつけてください(他に知っているものがあつたら書き加えて下さい)

・越天楽 () ・蘭陵王 () ・抜頭 () ・還城楽 () ・納曾利 ()
・胡蝶 ()

(3) 雅楽に興味がありますか

(好き、興味がある、興味がない、きらい)

B 能 楽

(1) 能楽を聞いたことがありますか

(有 る な い)

(2) 次にあげた曲のうち、演奏を聞いたことのあるものに◎、曲名のみ聞いたことのあるものに○をつけてください(他に知っているものがあつたら書き加えて下さい)

・羽衣 () ・松虫 () ・鉢の木 () ・安宅 () ・舟弁慶 ()
・小鍛冶 () ・鞍馬天狗 ()

(3) 能楽に興味がありますか

(好き、興味がある、興味がない、きらい)

C 琵琶 楽

(1) 琵琶楽は聞いたことがありますか

(有 る な い)

(2) 次にあげた曲のうち、演奏を聞いたことのあるものに◎、曲名のみ聞いたことのあるものに○、をつけてください(他に知っているものがあつたら書き加えて下さい)

・潯陽江 () ・川中島 () ・城山 () ・石童丸 () ・舟弁慶 ()
・白虎隊 () ・湖水渡 () ・扇の的 () ・菅公 ()

(3) 琵琶楽に興味がありますか

(好き、興味がある、興味がない、きらい)

D 箏 曲

(1) 箏曲を聞いたことがありますか

(有 る な い)

(2) 次にあげた曲のうち、演奏を聞いたことのあるものに◎、曲名のみ聞いたことのあるものに○、をつけてください(他に知っているものがあつたら書き加えて下さい)

・六段 () ・八段 () ・みだれ () ・千鳥の曲 () ・春の曲 () ・
・秋の曲 () ・明治松竹梅 () ・桜狩 () ・秋の言の葉 () ・楓の花 ()
・ほととぎす () ・近江八景 () ・新ざらし () ・岡康砧 () ・五段砧 ()

(3) 箏曲に興味がありますか

(好き, 興味がある, 興味がない, きらい)

E 地歌

(1) 地歌を聞いたことがありますか

(ある ない)

(2) 次にあげた曲のうち, 演奏を聞いたことのあるものに◎, 曲名のみ聞いたことのあるものに○をつけてください(他に知っているものがあつたら書き加えて下さい)

- ・八千代獅子 () ・雪 () ・松竹梅 () ・御山獅子 () ・宇治巡り ()
- ・八重衣 () ・曲ねずみ ()

(3) 地歌に興味がありますか。

(好き, 興味がある, 興味がない, きらい)

F 尺八楽

(1) 尺八楽を聞いたことがありますか

(ある ない)

(2) 次にあげた曲のうち, 演奏を聞いたことのあるものに◎, 曲名のみ聞いたことのあるものに○, をつけてください(他に知っているものがあつたら書き加えて下さい)

- ・鶴の巣ごもり () ・虚空鈴慕 () ・夕暮の曲 () ・鹿の遠音 ()
- ・一二三鉢返しの調 () ・薩慈 () ・三谷菅垣 () ・寒月 () ・岩清水 ()
- ・木枯 () ・江差追分 ()

(3) 尺八楽に興味がありますか

(好き, 興味がある, 興味がない, きらい)

G 長唄

(1) 長唄を聞いたことがありますか

(ある ない)

(2) 次にあげた曲のうち, 演奏を聞いたことのあるものに◎, 曲名のみ聞いたことのあるものに○, をつけてください(他に知っているものがあつたら書き加えて下さい)

- ・小鍛冶 () ・越後獅子 () ・勸進帳 () ・吾妻八景 () ・外記猿 ()
- ・新曲浦島 () ・鞍馬山 () ・秋の色種 () ・連獅子 () ・外記石橋 ()
- ・鶴亀 () ・元禄花見踊 () ・綱館 () ・橋弁慶 () ・筑摩川 ()

(3) 長唄に興味がありますか

(好き, 興味がある, 興味がない, きらい)

H 義太夫節

(1) 義太夫節を聞いたことがありますか

(ある ない)

(2) 次にあげた曲のうち, 演奏を聞いたことのあるものに◎, 曲名のみ聞いたことのあるものに○, をつけてください(他に知っているものがあつたら書き加えて下さい)

- ・絵本太閤記〔尼が崎の段〕() ・一谷嫩軍記〔熊谷陣屋の段〕()
- ・傾城阿波の鳴門〔順礼歌の段〕() ・菅原伝授手習鑑〔寺小屋の段〕()
- ・假名手本忠臣蔵〔山科閑居の段〕() ・壇浦兜軍記〔阿古屋琴責めの段〕()
- ・伽羅先代萩〔御殿の場〕() ・傾城反魂香〔吃又の段〕()

- ・近頃河原達引〔堀川猿廻しの段〕() ・壺坂靈験記〔沢市の段〕(壺坂寺の段)()
- ・三十三間堂棟由来〔木遣の段〕()

(3) 義太夫節に興味がありますか

(好き, 興味がある, 興味がない, きらい)

II 日本伝統音楽に用いる楽器について

A 次にあげた楽器のうち, 音色を聞いたことのあるものには◎, 楽器名のみ聞いたことのあるものには○, をつけてください。

- ・笙 () ・ひちりき () ・竜笛 () ・和琴 () ・かっこ () ・鉦鼓 ()
- ・楽太鼓 () ・三鼓 () ・琵琶 () ・三味線 () ・箏 () ・尺八 ()
- ・鼓 () ・篠笛 () ・締太鼓 ()

B 自分で演奏したことのあるものに○をつけてください (他にあったら書き加えてください)

- ・箏 () ・三味線 () ・締太鼓 () ・尺八 () ・鼓 ()

C 日本の楽器で, その音色を美しいと感じ, 心ひかれる楽器があったら, あげてください ()

III 現在日本において演奏されている音楽で好きなものに○をつけてください (他にあったら書き加えてください)

- ・クラシック () ・ジャズ () ・ロック () ・ポピュラー () ・フォーク ()
- ・歌謡曲 () ・日本の伝統音楽 () ・民謡 () ・わらべ歌 ()

IV 日本伝統音楽について

日本の音楽では, 特長として次のどれを強く感じますか。

- ・旋律〔旋法, こぶし等〕() ・リズム〔間〕() ・和音 () ・発声 ()
- ・楽器 ()

2) 調査Bカルテ (この調査は昭和53年度の105名を調査対象とした)

日本伝統の音楽を聞いて

5曲の演奏を聞いて, 次の事項に記入してください。

(D, Eについては該当するものを番号でかくこと)

	A	B	C	D	E
	音楽の種類	曲名	楽器	①すばらしい ②普通 ③つまらない	①好き ②興味がある ③興味がない ④きらい
1					
2					
3					
4					
5					

この調査に使用した曲（レコードからテープに録音したもの）は、次の5曲で、いずれも曲の一部であり、演奏時間は2分30秒から3分程度の長さである。

1. 尺八楽 鹿の遠音
2. 雅楽 越天楽
3. 箏曲 千鳥の曲
4. 義太夫節 菅原伝授手習鑑（寺小屋の段）
5. 長唄 秋の色種

箏曲「千鳥の曲」は、終りの部分、他はすべて曲の始まりの部分を用いた。

結果および考察

調査の結果は、「調査A」のアンケートによるものを、表1から表13までに、「調査B」の聴取によるものを表14にまとめてみた。また表2から表9までについて、1名も該当のない曲名は省略した。

表1 聞いた経験の有無

音楽の種類	聞いたことがある		聞いたことがない	
雅楽	213人	61.3%	134人	38.7%
能楽	202	58.2	145	41.8
琵琶楽	147	42.4	200	57.6
箏曲	346	99.8	1	0.3
地唄	39	11.2	308	88.8
尺八楽	261	75.2	86	24.8
長唄	246	70.9	101	29.1
義太夫節	99	28.5	248	71.5

この調査は、ごく大まかな調べで、曲名は知らなくても、3種類の音楽について、聞いたことがあるかないか、というものである。

箏曲は1名を除いて全員、尺八楽が75%、長唄が71%とよく耳にしているが、雅楽、能楽が約半分、琵琶楽、義太夫節と少なく、地唄にいたっては10%程度である。西洋音楽に対する理解・関心に比し、箏曲以外は縁の遠いものと思われる。また、こうした音楽を聞く機会が極めて少ないということが言える。

表2 雅楽について

曲名	演奏を聞いたことがある		曲名のみ聞いたことがある	
◎越天楽	105人	42.5%	11人	3.1%
胡蝶	16	4.6	57	16.4
納曾根	0		5	1.4
蘭陵王	1	0.3	0	
抜頭	0		1	0.3

◎ 中学校共通鑑賞教材

表3 能楽について

曲名	演奏を聞いたことがある		曲名のみ聞いたことがある	
	人数	割合	人数	割合
羽衣	54	15.6%	40	11.5%
舟弁慶	8	2.3	8	2.3
鉢の木	0		17	4.9
安宅	0		9	2.6
鞍馬天狗	3	0.9	8	2.3
松虫	1	0.3	3	0.9

表4 琵琶楽について

曲名	演奏を聞いたことがある		曲名のみ聞いたことがある	
	人数	割合	人数	割合
川中島	32	9.2%	25	7.2%
扇の的	11	3.1	11	3.1
白虎隊	6	1.7	31	9.0
城山	5	1.4	1	0.3
平家物語	2	0.6	3	0.9
舟弁慶	2	0.6	1	0.3
潁陽江	2	0.6	0	
菅公	0		4	1.2

表5 箏曲について

曲名	演奏を聞いたことがある		曲名のみ聞いたことがある	
	人数	割合	人数	割合
●六段	243	70.0%	28	8.1%
春の曲	111	32.0	49	14.1
千鳥の曲	71	20.5	20	5.8
八段	52	15.0	45	13.0
みだれ	34	9.8	25	7.2
ほととぎす	8	2.3	18	5.2
秋の曲	8	2.3	16	4.6
◎五段砧	6	1.7	3	0.9
明治松竹梅	6	1.7	2	0.6
近江八景	3	0.9	11	3.1
秋の言の葉	1	0.3	1	0.3

● 小学校共通鑑賞教材

◎ 中学校共通鑑賞教材

表6 地唄について

曲名	演奏を聞いたことがある		曲名のみ聞いたことがある	
	人数	割合	人数	割合
八千代獅子	3人	0.9%	1人	0.3%
松竹梅	1	0.3	11	3.1
宇治巡り	0		3	0.9

表7 尺八楽について

曲名	演奏を聞いたことがある		曲名のみ聞いたことがある	
	人数	割合	人数	割合
江差追分	70人	20.2%	48人	13.8%
鶴の巣ごもり	5	1.4	4	1.2
岩清水	4	1.2	10	2.9
◎鹿の遠音	4	1.2	3	0.9
寒月	0		7	2.0

◎ 中学校共通鑑賞教材

表8 長唄について

曲名	演奏を聞いたことがある		曲名のみ聞いたことがある	
	人数	割合	人数	割合
越後獅子	55人	15.9%	31人	8.9%
勧進帳	37	10.7	11	3.1
連獅子	27	7.8	13	3.7
鶴亀	11	3.1	13	3.7
元禄花見踊	6	1.7	3	0.9
吾妻八景	3	0.9	6	1.7
◎小鍛冶	3	0.9	1	0.3
筑摩川	1	0.3	7	2.0
鞍馬山	1	0.3	1	0.3
新曲浦島	0		3	0.9

◎ 中学校共通鑑賞教材

表9 義太夫節について

曲名	演奏を聞いたことがある		曲名のみ聞いたことがある	
	人数	割合	人数	割合
假名手本忠臣蔵	5人	1.4%	27人	7.8%
◎三十三間堂棟由来	5	1.4	3	0.9
傾城反魂香	4	1.2	1	0.3
壺坂靈験記	3	0.9	7	2.0
菅原伝授手習鑑	1	0.3	20	5.8
壇浦兜軍記	0		16	4.6
一谷嫩軍記	0		7	2.0
絵本太閤記	0		2	0.6

◎ 中学校共通鑑賞教材

表2から表9まで各種の音楽について、具体的に曲名をあげての調査結果は、雅楽の「越天楽」が42.5%、能楽の「羽衣」が15.6%、箏曲の「六段」70%、「春の曲」32%、「千鳥の曲」20%、「八段」15%、尺八楽の「江差追分」20.2%、長唄の「越後獅子」15.9%、「勧進帳」10.7%、という程度で、あとの曲については10%以下、少ないものは1%に達しない状況である。箏曲についてのみ比較的良好に聞いているようであるが、これも全くポピュラーな六段の曲の70%を除けば調査人員の三分の一以下である。又低いパーセンテージのものは、曲の名も聞いたことがないというのが大多数で、日本伝統音楽との結び付きが極めて小さいと言える。

次にこうした音楽へ示す興味関心はというと、聞いた経験も少なく、聞く機会も極めて少ないので、答えることに無理があるかも知れないが、興味を示さないものが多い。

表10 興味関心について

音楽の種類	好き		興味がある		興味がない		きらい	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
雅 楽	2人	0.6%	83人	23.9%	258人	74.4%	4人	1.1%
能 楽	0		87	25.1	257	74.0	3	0.9
琵琶 楽	0		105	30.3	241	69.4	1	0.3
箏 曲	122	35.1	163	47.0	62	17.9	0	
地 唄	16	4.6	119	34.3	212	61.1	0	
尺 八 楽	16	4.6	69	19.9	255	73.5	7	2.0
長 唄	7	2.0	40	11.5	290	83.6	10	2.9
義太夫節	0		49	14.1	298	85.9	0	

表11 楽器について

楽器名	演奏の経験がある	演奏したことはないが音色は聞いた	演奏の経験も聞いたこともないが名称は聞いた	音色が美しいと感じた
箏	106人	231人	10人	161人
つづみ	13	262	13	29
三味線	11	336	0	35
尺八		328	7	49
琵琶		257	64	11
笙		143	106	9
ひちりき		103	112	
楽太鼓		57	25	
和琴		42	79	
竜笛		35	50	
篠笛		20	43	
締太鼓		15	37	
かっこ		14	24	
鉦鼓		11	20	
三鼓		7	13	

箏曲については、親しみも深く、好きな者と興味があるものを合わせると、82.1%と高い数値を示しているが、他はすべて50%に満たず、興味関心がうすいという結果になっている。このことは、学校の音楽教育にこうした種類の音楽が、全くといってよいくらい取り扱われず、聞く機会が殆んどなく、ある特定のものを、特定の者のみが経験を持つという結果に外ならない。機会を与え適切な指導があれば、もっと多くの愛好者ができ、興味関心を寄せる者も多くなるだろうということは疑いないと思う。

楽器については、雅楽に使われる笙・ひちりきを含めて、一般によく使われるものは、比較的良好に知っているようである。(演奏の経験がある、とは少し習ったことがある程度のもも含め、1曲以上完全に演奏できるという者のみではない)

表12 好きな音楽について(1人1種類と限らない)

種 類	好 む 人 数	種 類	好 む 人 数
フ ォ ー ク	276	ロ ッ ク	92
ポ ピ ュ ラ ー	226	民 謡	87
ク ラ シ ッ ク	209	日本の伝統音楽	42
わ ら べ 歌	132	ジ ャ ズ	22
歌 謡 曲	107	さ ん び 歌	3

この調査では、2種類をあげたものも30名余りあり(3種類はない)重複している数もあるが、わらべ歌が132名(38%)、民謡が87名(25%)、伝統音楽42名(12.1%)が好む音楽の対象になっている。

表13 日本音楽の特長を関するものについて(1人1種と限らない)

特 長	人 数	特 長	人 数	特 長	人 数
旋 律	296	リ ズ ム	76	発 声	48
楽 器	105	和 音	61		

次に日本音楽を聞いて、西洋音楽の場合とどこに違いを感じるか、日本的なものはどこに一番つよく感じるか、については、旋律、ふし回し、というのが最も多く、ついで楽器を多く感じたようである。つまり日本の音階、旋法に日本音楽の特長を感じているものが最も多い。

調査Bの実際の音楽を聞いての結果をみると、表14のとおりである。

表14 日本伝統の音楽について

(調査は105名実施したが、表は%で示す) ※は正答率

(音楽の種類)	※音楽の種類	※曲名	※楽器	すばらしい	普通	つまらない	好き	興味がある	興味がない	きらい
1 尺八楽	78.1	0.9	97.1	23.8	52.4	23.8	5.7	18.1	67.6	8.6
2 雅楽	84.8	21.0	笙 21.9 ひちりき 15.2	31.4	58.0	10.5	9.5	36.2	46.7	7.6
3 箏曲	100	1.9	100	49.5	48.6	0.9	34.3	50.5	15.2	0
4 義太夫節	43.8	0	35.2	7.6	50.5	41.9	1.9	14.3	65.7	18.1
5 長唄	52.4	0	93.3	13.3	59.0	27.7	2.9	25.7	62.9	8.6

この調査は、昭和53年度の学生のみを実施したもので、調査人数は調査Aの3分の1程度であるが、百分率によって、表10の興味関心調査と比較してみると、かなりの違いがみられる。即ち、好き、或いは興味がある者がふえ、興味がない者が減少している。またきらいという者が増加している。この原因として考えられることは、アンケートによる調査Aの場合、実際の音楽を聞いていない者も想像で答えたと思われるため、漠然としか表われなかったことであり、きらい、とはっきりきめることも、ほとんどなかったが実際に音楽を聞くと、好き、きらいもはっきりし、興味を感じずる者も多くなったことによるということができよう。

「音楽の種類」については、比較的正確が多かったが、曲名については、ほとんど知らないという結果がでている。

以上が日本音楽についての調査結果であるが、なお調査対象とした学生のうち、昭和51年度、52年度の学生について、西洋音楽を基調とする音楽能力の診断テストを実施した結果は、次の表15の如くであり、西洋音楽に対する理解とともに、音楽的詩能力も低くないことを物語っている。

表15 Arnord Bentleyによる音楽診断テスト

(日本語版による録音テープ〔名古屋市教育館所蔵〕使用)

調査対象		音高識別		音記憶	
1	7才	8.0	14 ~ 1	2.6	9 ~ 0
2	14才	13.5	20 ~ 7	8.2	10 ~ 3
3	少年合唱隊員	16.1	19 ~ 12	9.3	10 ~ 8
4	音楽大学々生	17.7	20 ~ 13	9.8	10 ~ 8
5	一般成人	14.3	19 ~ 7	8.6	10 ~ 2
●	名女大3年	17.6	20 ~ 9	8.8	10 ~ 4

和音分析		リズム記憶		合計	
1	4.8 14 ~ 0	3.9	9 ~ 0	20.4	43 ~ 7
2	11.5 20 ~ 5	8.8	10 ~ 5	42.0	58 ~ 19
3	15.2 20 ~ 11	8.3	10 ~ 5	48.8	57 ~ 38
4	18.4 20 ~ 14	9.5	10 ~ 7	55.5	60 ~ 47
5	12.5 20 ~ 2	8.6	10 ~ 4	44.1	58 ~ 26
●	13.9 19 ~ 5	8.5	10 ~ 3	48.7	59 ~ 30

備考 1) 1から5までの調査対象はBentleyによるイギリスのもので参考資料である。

2) 音高識別……20問 音記憶……10問 和音分析……20問 リズム記憶……10問の問題で左は正解数平均、右は最高～最低の正解を意味する。

西洋音楽の基盤の上に乗っての音楽的理解は深いにもかかわらず、日本の音楽については極めて関心がうすいというのが実態である。調査した曲の中には、共通鑑賞教材もあり、小学校や中学校で学習しているはずのものもあるのに、現在心に残っていないくらい疎遠になっている。学習し研究する機会が多ければこのような結果は出ないと思う。

結 論

わが国の伝統音楽は、日本の土地、風俗、生活の中で、我々の祖先によって育成され、日本民族の熱い血潮の中に流れる幽幻な調べ、心に脈うつリズムとともに伝承され進展して、長い歴史とすぐれた伝統の中に磨きあげられた貴重な文化遺産である。そこには西洋音楽にみられぬひびきがあり、西洋音楽に劣らぬ芸術性を秘めている。

最近、民族音楽の研究が盛んになり、世界各地の特長ある音楽の貴重さが大きく取りあげられてきているが、外国人で日本の音楽の美しさに心ひかれ、熱心に研究する人々が増加しつつある。このような伝統に輝く貴重な日本音楽を過去の遺産としてのみ、一部の人の保存にゆだねるのでなく、高度の音楽文化を正しく受けつぎ、外国の勝れたものも吸収し消化して、新しい次の時代の日本音楽を創造していくことが必要である。

現代日本の作曲家の中には、新しい日本の音楽創造のために貢献され、すでに試みられた立派な作品も数少くなくはないが、新しい日本音楽を作り上げていくためには、一部の音楽専門家に頼るのでなく、国民全体が深い関心を寄せるべきである。

そうしたことの基盤作りとして、学校における音楽教育の中に伝統音楽理解のための積極的な働きかけが必要である。

音楽教育の最初は、決して西洋音楽一辺倒の構想ではなかった。即ち、明治12年音楽教育を進めるための音楽取調掛が設置され、伊沢修二氏が御用掛を拝して、時の文部卿に提出された音楽教育に関する意見書では、国楽をおこすことが大きな目標であった。それがいつの間にか西洋音楽のみの教育となり、戦後の学習指導要領で、歌唱、鑑賞、器楽、創作等、種々の領域が示され、音楽教育が急激に進展、ことに器楽教育の面では驚くべき向上発展をとげてきたが、すべて西洋音楽の流れであり、日本の音楽は締め出された形となった。

もっとも現行学習指導要領の中で、全く日本音楽が忘れられたわけではない。わらべ歌・民謡も教材として取り上げることが多くなり、鑑賞教材として若干の名曲が、小中の対象として取り上げられている。しかし、西洋音楽にはきわめて綿密な計画路線を敷きながら、日本の音楽については散発的であり思いつきのとしか考えられない。指導の効果を期待することは無理である。

学校音楽の中で箏をひかせたり、三味線を演奏させることを望むわけではないが、鑑賞活動を通して、日本音楽への関心を深め、理解への基礎を作り上げることが大切と思う。

ヘンデルのメヌエット、モーツァルトのホルン協奏曲、グリーグのペール・ギュント組曲(何れも小学校共通鑑賞教材)等、を鑑賞する小学校の子どもに、宮城道雄作曲「春の海」1曲だけで、日本音楽の基礎的理解は誰が考えても、きわめて困難である。

小学校では、わらべ歌を通して、ということもけっこうであるが、そのためには先ず教師の在り方が問題である。

「日本音楽に対する現代日本人の中年層や若い世代の疎遠は、これまでの教育の姿によって作られたものである。日本音楽に対しての全くの無知がますます疎遠や過小評価につながっている……………」

(小泉文夫氏著「日本の音」)

小泉氏の指摘されるように、教育の場、教師の姿が、大きな鍵をにぎっている。

子どもたちを指導する教師が先ず、日本音楽に対する理解と知識を持ってほしい。

わらべ歌を日本音楽への唯一の入り口と考えるならば、なおさら、日本音楽の持つ要素について深い知識を持つ教師が、わらべ歌を指導しなければならない。

こうした意味で、教員養成のための音楽教育も充分研究する必要があると思う。

参 考 文 献

文部省著作，中学校指導書音楽編，P.261（昭45.5）

東京芸術大学音楽取調掛研究班，音楽教育成立への軌跡，

小泉文夫，日本の音，世界のなかの日本音楽

Arnold Bentley, Musical Ability in Children and its Measurement, P72~P78, P108~P118